

平成30年度 炉物理部会予算及び実績

科 目	H30年度 予算案	H30年度 実績(8/24時点)	備 考
-----	--------------	---------------------	-----

[1] 通常予算

(単位 円)

収 入	前年度予算繰越金 [A]	5,100,601	5,100,601	平成30年7月実績
	本部配布金	255,000	255,000	平成30年7月実績
	掲載料	0	0	
	テキスト売上	0	0	
	セミナー残金	0	5,878	セミナー担当幹事 北大千葉先生より8/20連絡
	その他	0	0	
	当期収入合計 [B]	255,000	260,878	

支 出	会議費	0	0	
	旅費交通費	306,000	160,000	・予算の30.6万のうち、正式に予算計上しているのは22.6万。 (残り8万は炉物理部会運営会議旅費を想定しているが、 昨年度の繰越金使用理由書申請に間に合わなかったため、 予算外申請を前提として、炉物理部会資料のみに記載。) ・PHYSOR2018参加学生2名に8万円ずつ旅費補助実施。
	通信運搬費	4,000	600	本部との連絡費等。平成30年7月までの実績。
	消耗品費	5,000	0	
	一般外注経費	0	0	
	諸謝金	0	0	
	負担金	0	0	
	助成金	0	0	
	通常予算補助金	0	0	
	管理費配賦額	0	0	
	その他	520,000	21,492	・部会賞奨励賞(5千円×2件)、部会賞貢献賞(5千円×2件)の 予算に対し、奨励賞2件、貢献賞1件。副賞を表彰盾に変更。 ・RPHA2019開催準備のため50万円を2018年12月に拠出予定。
	当期支出合計 [C]	835,000	182,092	

通常予算収支 [D]=[B]-[C]	-580,000	78,786
--------------------	----------	--------

翌年度繰越金 [E]=[A]+[D]	4,520,601	5,179,387
--------------------	-----------	-----------

平成31年度 炉物理部会予算案

科 目	H31年度 予算案	備 考
-----	--------------	-----

[1] 通常予算

(単位 円)

収	前年度予算繰越金 [A]	5,179,387	本部回収額支出として4,655円を繰越時に支出
	本部配布金	255,000	平成30年7月実績に基づく
入	掲載料	0	
	テキスト売上	0	
	セミナー残金	0	セミナー収支は±0として計算
	その他	0	
当期収入合計 [B]		255,000	

支	会議費	0	
	旅費交通費	320,000	・昨年度と同程度の金額で仮の枠取り(国際会議旅費8万円×3名 +運営会議旅費8万円) ・対象者や補助対象会議等については今後検討予定。
	通信運搬費	4,000	
	消耗品費	5,000	
	一般外注経費	0	
	諸謝金	0	
	負担金	0	
	助成金	0	
	通常予算補助金	0	
	管理費配賦額	0	
出	その他	30,000	・炉物理部会賞(組織1件、個人3件)
	当期支出合計 [C]	359,000	

通常予算収支 [D]=[B]-[C]	-104,000
--------------------	----------

翌年度繰越金 [E]=[A]+[D]	5,075,387
--------------------	-----------

平成 31 年春の年会での企画セッションについて

学术交流小委員会担当幹事
小野 道隆、大泉 昭人、卞 哲浩

日本原子力学会 第 49 回炉物理部会全体会議
平成 30 年 9 月 5 日

平成 31 年春の年会の企画セッションのテーマは、9 月下旬までに炉物理部会員にメールにてテーマ案を広く募集し、頂いたテーマ案を元に 10 月上旬に決定させていただきたく思います。なお、企画セッションのテーマの最終決定は炉物理部会 運営委員に一任させていただきますようお願いいたします。

スケジュール (案)

- テーマ案の募集 9 月下旬
- テーマの確定 10 月上旬
- 企画セッション提案書の提出 11 月下旬 (昨年度の提出時期より)

参考情報としまして、これまでに炉物理部会員よりご提案があった企画セッションのテーマを以下にお示します。また、過去に実施された炉物理部会および核データ部会の企画セッションのテーマ一覧を表 1 にお示します。

炉物理部会員よりご提案があった企画セッションのテーマ

- 炉物理を学ぶ人の人材像
- 大学における炉物理教育のあり方と組織間連携
- 炉物理の未解決問題
- 不確かさ評価
- 粒子輸送モンテカルロ法の最近の進展
- KUCA での大学院生向け未臨界実験
- 格子物理または自己遮蔽の計算
- 臨界安全と安全評価モデルの類似性評価
- 原子力事故時のマスコミ対応
- SMR (Small Modular Reactor) をめぐる状況と課題

- 以上 -

表1 近年の炉物理部会及び核データ部会の企画セッションテーマ一覧

-	炉物理部会	核データ部会
2005	秋 J-PARCにおける核変換実験施設実現への取り組み	〃
	核データ・炉物理研究と社会の係わり	〃
2006	春 企画セッション無し	これからの放射線医療と原子分子・原子核データの応用 核データを巡る情勢
	秋 分離変換技術の実現にみけて炉物理・核データは如何に寄与できるか	〃
2007	春 OECD/NEA/核データ評価国際協力ワーキングパーティ(WPEC)における活動	〃
	秋 高速炉とADSRの開発における鉛ビスマス利用技術の現状と将来展望	企画セッション無し
2008	春 J-PARC核変換実験施設の現状と展望	我が国の核データ活動を展望する
	秋 企画セッション無し	核データ研究の更なる発展に向けて -核反応理論の最前線と核データへの要求-
2009	春 2009 KNS-AESJ Joint session of Reactor Physics and Nuclear Data	〃
	秋 新検査制度導入と炉心設計	核融合炉関連核データの現状と将来展望 核データ評価における品質保証とJENDLの利用状況
2010	春 炉物理実験施設の現状と課題、そして今後	JENDL-4の完成と今後の展望
	秋 アクチノイドの炉物理と核データ	〃
2011	春 軽水炉・高速炉におけるトリウム燃料の利用	核データ分野の将来展望：大規模計算による核データ生産と普及活動
	秋 福島原子力発電事故と炉物理の将来	福島第一原子力発電所事故と核データの将来：原点へもどって
2012	春 炉物理分野の研究開発の展望	シグマ特別専門委員会活動報告と核データ研究の展望
	秋 炉物理・核データの将来にむけて	評価済核構造データファイルENSDFとその応用
2013	春 AESJ-KNS Joint Workshop on Reactor Physics and Nuclear Data	シグマ委員会設立50周年をむかえて
	秋 炉物理・遮蔽分野における安全解析コード開発戦略 燃料デブリ取出に向けた臨界安全における課題	〃
2014	春 熱中性子散乱則データのこれまでとこれから	〃
	秋 炉物理分野の人材育成の現状と今後の課題	核データ分野における大型研究開発プロジェクトの現状と展望
2015	春 研究炉や臨界実験装置の将来計画と今後のあり方	〃
	秋 炉物理・核データ分野の若手からのチャレンジ・提言	〃
2016	春 国産コードシステム開発の動向と今後の展望	ミューオンの物質内輸送とその学際的応用
	秋 原子炉・加速器施設の廃止措置と放射化核データライブラリの現状	〃
2017	春 ベンチマーク問題や積分実験を用いたJENDL及び 核計算コードのV&Vの現状と今後の展望	〃
	秋 原子炉物理分野の研究・開発ロードマップの更新	「シグマ」特別専門委員会の平成27, 28年度活動報告
2018	春 炉物理計算におけるV&Vの課題と解決	我が国における核データ計算コード開発の現状と将来ビジョン
	秋 研究炉の運転再開と今後	小型加速器中性子源と核データのニーズ

※核データ部会の欄の「〃」は、炉物理・核データの合同セッションを意味する。

※2011年春の年会は東日本大震災の影響で未開催のため、企画セッションも未実施

第3回「日中韓炉物理会議 (RPHA19)」の準備委員会 (案)

日本原子力学会 第49回炉物理部会全体会議

1. Reactor Physics Asia 2019 (RPHA19) Conference の開催

日時：2019年12月2日(月) 午前9:00～12月3日(火) 午前11:00

(12月1日(日) 午後6:00～午後8:00: Reception)

場所：大阪国際交流センター

<http://www.ih-osaka.or.jp/>

主催：日本原子力学会・炉物理部会

韓国原子力学会・炉物理・計算科学部会

中国原子力学会・炉物理部会

後援：近畿大学原子力研究所、京都大学複合原子力科学研究所

2. RPHA19の準備委員会の構成メンバー (以下、敬称略、*：班長)

委員長：卞 哲浩 (京大)

総務班：*佐野忠史 (京大)、山中正朗 (京大)

財政班：*田淵将人 (NEL)、竹田 敏 (阪大)

現地運営班：*左近敦士 (近大)、小玉泰寛 (NFI)

出版班：*大岡靖典 (NFI)、佐野忠史：論文集、左近敦士：Abstract集

Web班：*辻田浩介 (NEL)、竹本友樹 (MHI)

3. RPHA19 準備委員会第1回会合

日時：2018年10月1日(月)

場所：NEL 会議室 (大阪・肥後橋)

時間：午後3:00～5:00 (予定)

平成30年9月5日

学術研究交流小委員会幹事 (RPHA担当)

京都大学複合原子力科学研究所 卞 哲浩

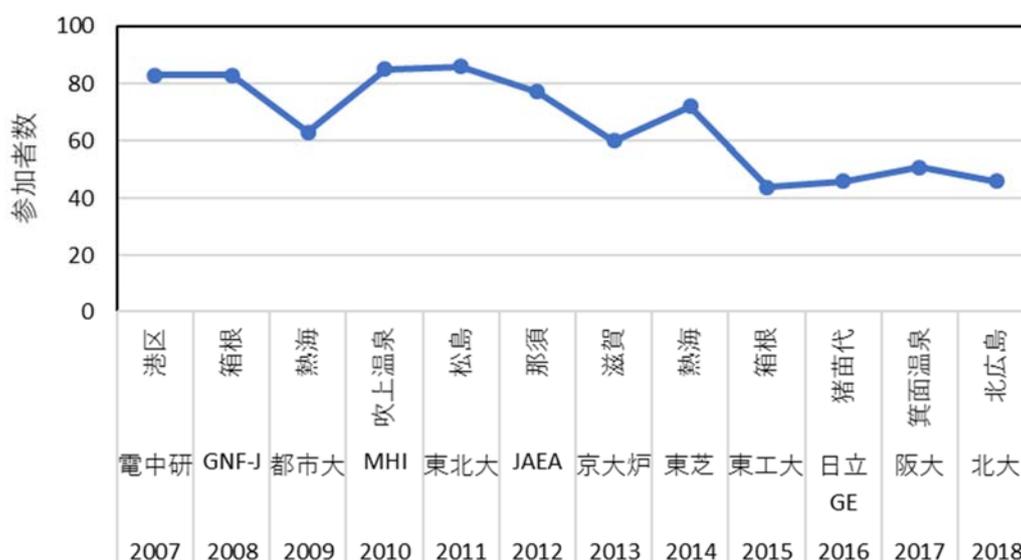
以 上

第 50 回炉物理夏期セミナー・若手研究会 開催報告

セミナー小委員会担当幹事 千葉 豪（北海道大学）
 学生・若手小委員会担当幹事 竹本 友樹（三菱重工）
 竹田 敏（大阪大学）

表記セミナーを、2018年8月6日（月）～8日に北海道北広島市にて開催した。初日は13:45開始、最終日は12:15終了の日程とした。

参加者数は46であった（講師6、社会人22、学生18）。最近のセミナー参加者数を以下に示すが、ここ4年間は40～50程度で推移している。なお、北海道でのセミナー実施回は参加者が少なめとなる傾向があることを付記する（第29回は63名、第35回は48名）。



参加費は、正会員6,000円、学生会員2,000円、非会員10,000円、学生非会員4,000円とした。今回は、会場費が比較的高めとなったが、講師に対する旅費の支払い額がゼロであったため、収支は僅かな黒字となった。今後、参加者数が伸び悩む状況が続くようであれば、参加費の増額を検討する必要があるかもしれない。

テーマは「炉物理プログラミングの「今」を学ぶ」とし、巽雅洋氏（NEL）による演習形式の「Robutsuri Programming DOJO」（以下、DOJO）と、5名の講師による講義の構成とした。

DOJOについては、参加者が自身のノートPCを持ち込んで行うものとした。事前（セミナーの1ヶ月弱前）のセミナーテキストの郵送や、セミナーのMLを通じた事前連絡により、予習、PCの環境設定などを参加者に行ってもらい、セミナーに臨んでもらった。また、Youtube Liveでのライブ配信を試みた。事前に別環境（NELと北大）での試行を行っては

いたが、実際の環境では動作がスムーズでなかった点もあったようである。

講義については、炉物理プログラミングに関連した内容の 3 件（多田健一氏（JAEA）、遠藤知弘氏（名大）、長家康展氏（JAEA））、Reduced Order Modeling に関する 1 件（山本章夫氏（名大））、光の輸送計算に関する 1 件（藤井宏之氏（北大））を実施した。

セミナー実施後のアンケートでは、今後のセミナーでとりあげてほしいテーマとしていくつか回答を得たので、次回の幹事に情報を送付した。回答の中で、今回のようなプログラミングの演習形式というものがいくつかあり、また、実験をメインとした内容というものもあった。毎回とは言わないまでも、数回に一度は、今回のように趣向を変えた内容のセミナーを実施するのもよいであろう。

若手研究会は、若手研究者の交流を図ることを目的とし、例年の研究内容の発表から、グループワークによる議論、発表に変更した。議論のテーマは「演習型セミナーのメリット/デメリット、改善点」、「炉物理分野におけるやりがい、今後求められること」の 2 つとした。約 30 名の参加者による活発な議論、発表を通し、若手研究者の交流を深めることができた。また、セミナーへのフィードバックも得られ、大変有意義な研究会であった。

DOJO を主宰いただいた巽雅洋師範、講義をご担当いただいた講師の皆様、協賛会社の皆様、ご参加いただいた皆様に深くお礼申し上げます。

以上

2018年7月11日

一般社団法人 日本原子力学会
各部会 各位

原子力学会誌「アトモス」への寄稿のお願い

一般社団法人 日本原子力学会
学会誌編集委員会

日頃から原子力学会誌「アトモス」に対してはご配慮いただき、ありがとうございます。

さて原子力学会誌編集委員会では原子力学会が創立60周年を迎えるにあたりまして、下記のような特集号を発行いたします。つきましては学会内の各部会の皆様に、下記のようなテーマでご執筆を賜りたく存じております。

各部会の方々には大変、ご多忙のこととは存じますが、ぜひ上記のご趣旨を理解して頂いた上で、下記のような内容でご参画いただきたく、何卒よろしく願いいたします。なお本企画は各委員会、各連絡会の方々にも依頼しております。

記

○企画：メインテーマ「これまでをふりかえり、今後を展望する－創立60年を迎え、学会は何をなすべきか」（仮）

○掲載号：2019年4月号（予定）

○具体的な内容

<執筆いただきたい内容>

各部会におかれましては、各部会の報告ではなく、各部会が扱っているテーマに沿った記事のご執筆をお願いいたします。具体的には、例えば原子力安全部会の場合だと、1F事故後に原子力の安全向上がどうなされたか、これからの方向性はどうかなど、「原子力の安全」に関するトピックについての記事を期待します。同様に社会・環境部会の場合だと「原子力と社会」に関するトピックについて焦点を当てたものを期待します。

参考までに、編集委員会が想定したテーマ候補を下記に記載いたします。

前述しましたように、貴部会が扱うテーマをとらえたものであれば、後述のテーマ候補にこだわるものではありません。また、後述のテーマ候補について執筆される場合でも、後述の中から一つだけ言及されても、あるいは複数テーマに言及されてもどちらでも結構です。

- ・ 30年後の日本の原子力業界はどうなっていると思いますか。どうなってほしいと思いますか。とりわけあなたの部会が関連する分野についてはさまざまな展開やテーマがあると思いますが、そのうちの一つあるいはいくつかを選んで書いていただきたいと思います。

- ・ 次の10年で、あなたの部会で注目するテーマは何ですか？どんなテーマに取り組み、どのような成果を出したいと思っていますか。また、あなたの部会で、もしこれまでの反省があれば、それはどんなことでしょうか。
- ・ あなたの部会で、つながりを強化したい組織はありますか。他部会、他学会、その他、国内外の産官民のアクター含めても結構です。
- ・ 1F事故後の原子力学会の活動をどう評価していますか。原子力学会に足りないものをあげるとすれば何でしょうか。
- ・ 今後、原子力学会、あるいは原子力界全体にどんな活動を期待しますか。

<執筆者の選定についてのお願い>

各部会におかれましては上記の趣旨をふまえた上で、執筆者をお二人選んでいただきたく存じます。お二人のうち一人については、可能であれば若い方を選んでいただければ幸いです。

執筆者となりましたお二人については上記の趣旨に沿って、記事執筆をお願いします。なお、お二人のクレジットには所属部会が記載されますが、その内容は所属部会を代表するものではなく、執筆者独自のものとして論を展開していただければと思います。

各部会におかれましては、執筆者の記事を部会として承認していただく必要はございません。ただし、当該部会に言及された部分があれば、その部分についてのみ、事実確認をお願いいたします。

また、執筆者が確定しましたら【2018年9月3日（月）までに】学会事務局<hensyu@aesj.or.jp>へ執筆者名のご連絡をお願いいたします。

<分量>

・ 分量は二人あわせて4ページです。（3ページでも結構です）なお、お二人の分量の配分はお二人で調整していただければ幸いです。

<締め切り>

提出締切：2018年10月1日（月）

提出先：原子力学会事務局 学会誌編集担当 野口<hensyu@aesj.or.jp>

<その他>

参考までにテンプレートを添付いたします。

以上

炉物理部会で作成する炉物理の教科書の作成について(案)

2018年9月5日 山本

1.経緯と動機

- ・炉物理ロードマップ 2017 において、炉物理部会で取り組むべき事業の一つとして炉物理の指導要領(教材、教科書)の作成が取り上げられている。
- ・学会では、2007年に炉物理の教科書を作成したが、著作権の問題から活用されていない。
- ・日本語で発行されている炉物理の教科書はかなりの数になるが、初学者向けに懇切丁寧に解説がなされた教科書は数少ない。例えば、上記の学会の炉物理の教科書についても、初心者が独学で学ぶにはハードルが高い部分がある。
- ・また、これまでの炉物理の教科書は、「原子炉の物理」に関する解説と、「物理現象のモデル化」「計算のための近似」が混在しており、炉物理のハードルを上げる原因になっている。

2.作成の方針

- ・長期的には、大学で炉物理を教える教員数がさらに減少することを想定し、大学教養レベルの数学の知識を持っている初学者が独学で炉物理の基礎を学ぶことを可能とする。そのため、懇切丁寧な記述を行う。ページ数については制限しない。
- ・原子炉の物理に関する解説部分と、モデル化及び近似に関する解説部分を分離し、2部構成とする。
- ・第1部では、原子炉の物理に関する解説を、数式を使用せずに行う。カバーする範囲は、基礎的な原子核物理から発電炉の仕組みまでと安全性までを想定する。第1部は、原子力工学を学ぶ全ての初心者を読者として想定する。
- ・第2部では、「原子炉の物理」をいかにモデル化するか、どのように数式に落とし込むか、その数式をどのように近似するか、どのように計算するか、を記述する。レベルは、学会の炉物理教科書あるいは、もう少し易しいレベルを想定。
- ・本教科書(第2部まで)を読むことで、原子力・放射線部門の技術士及び炉主任の炉物理の問題を解くことができるようにすることを目標にする。
- ・炉心解析などの業務、炉物理解析や炉物理実験に関する研究を行うための基礎知識を得ることを目標にする。
- ・例題及び演習問題(回答付き)を豊富に準備する。
- ・印刷物として出版するか、電子出版するか、自由にダウンロードできるようにするか、については今後検討が必要。
- ・まず、第1部の作成から着手し、目処が立った段階で第2部に着手する。

3.目次案

第 I 部 原子炉の物理

1. 原子炉の物理とは
2. 原子力開発の歴史
3. 原子核物理の基礎知識
4. 中性子と原子核の反応、断面積
5. 核分裂と連鎖反応、発生エネルギー、崩壊熱
6. 中性子の一生
7. 原子炉内での中性子の振る舞い
8. 中性子の増倍と臨界
9. 燃焼
10. 出力の変化
11. 発熱と伝熱、発電
12. 燃料の振る舞い
13. 物理現象の相互作用(核熱フィードバック)
14. 臨界集合体
15. 試験研究炉
16. 動力炉
17. 原子炉の物理と安全性

第 II 部 原子炉の解析

1. 原子炉の物理とモデル化
2. 原子核物理
3. 反応断面積
4. 核分裂と連鎖反応
5. 中性子束と中性子流
6. 中性子の空間分布
7. 臨界
8. 減速と中性子のエネルギー分布
9. 燃焼
10. 動特性

人材基盤 WG 及び作業部会の設置について(案)

2018年9月5日 山本

1.概要

2017年版炉物理ロードマップ報告書の提言に従い、炉物理関係の人材基盤に関連する議論及び活動を行うWG及び作業会の設置を提案する。

2.構成

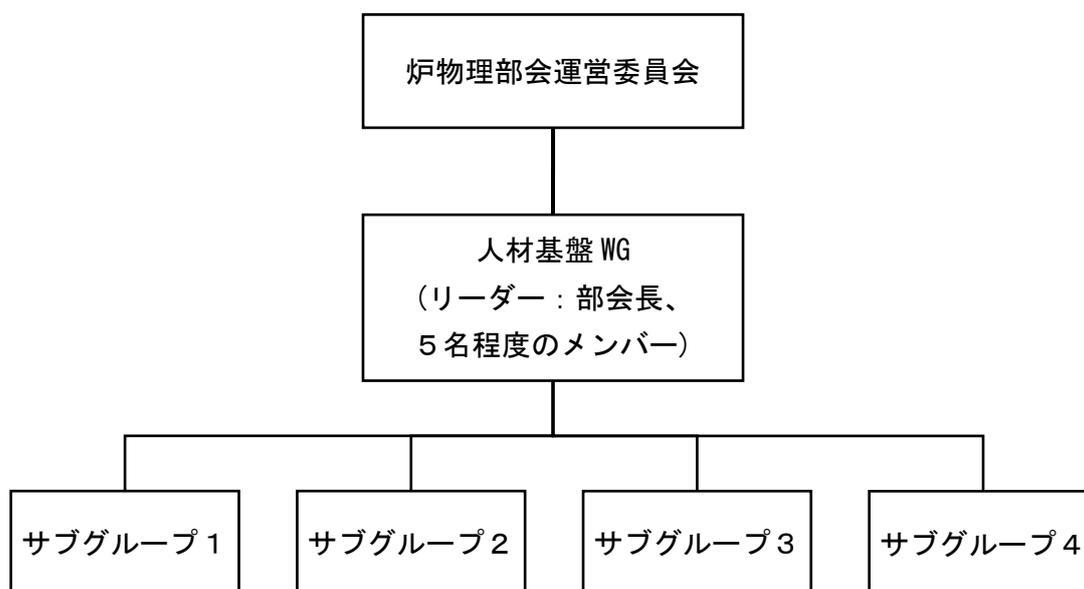


図 5.3.1： 人材基盤 WG のイメージ

(原子炉物理分野の研究開発ロードマップ 2017年版 (RM2017) より)

3.当面の活動内容

(1)人材基盤 WG

- ・RM 報告書で提言のあった項目のうち、以下の三点について、議論を行い、方向性を示す。
 - ・ [2-3-4] 炉物理講義要領の作成については、炉物理の教科書の骨子について検討を行う。
 - ・ [2-1] 人材像の提示、[2-6] 国際的活動の推進については、2019年3月の炉物理部会総会にて、方向性を提示する。
 - ・ 以下、2017RM 報告書より、一部抜粋したものを示す。
- [2-1] 人材像の提示
 - [2-1-1] 炉物理を専門とする人材に対する人材像の提示
 - [2-1-2] 炉物理を専門としない人材に対する人材像の提示

人材像の提示は、原子力分野における人材育成を考える上で根幹となるものである。そのため、炉物理を専門とする人材に対する人材像については、様々な組織の炉物理有識者により検討されることが望ましい。また、炉物理を専門としない人材に対する人材像については、炉物理以外の他分野の意見を取り込むことが必要であると考えられることから、炉物理部会運営委員会の直下の組織である人材基盤 WG にて取り組むことが望ましい。

優先度ならびに時間的スケールの観点からは、前述の通り、人材像の提示は人材育成における根幹となることから、最も優先して早期に取り組むべき項目であると考えられる。

(参考：2012RM 振り返りにて、重要度・緊急度ともに S)

- [2-3] 専門教育

- [2-3-4] 炉物理講義要領の作成

ここで作成する炉物理講義要領は、今後の炉物理教育の軸となるものであり、前述の人材像とも密接に関わるものである。そのため、人材像の検討を行う人材基盤 WG にて同じく取り組まれることが望ましいと考えられる。

なお、本項目は、将来的な炉物理専門教員の不足を見据えた項目であることから、人材像ほど早急に取り組む必要は無いと考えられるが、人材像の検討に引き続いて、数年内に作成されるべきものであると考えられる。

(参考：2012RM 振り返りにて、重要度・緊急度ともに S)

- [2-6] 国際的活動の推進

- [2-6-1] 国際的に活躍する若手研究者育成のための海外研究交流の支援

若手研究者の海外研究交流支援については、費用面にて大きな金額を取り扱う必要がある。そのため、炉物理部会運営委員会に近い組織にて取り扱われることが望ましく、運営委員会直下の人材基盤 WG にて取り扱うことが適切である。人材基盤 WG では、既に運営委員会主導にて行われている国際学会渡航支援を含めた、幅広い海外研究交流の支援について検討する。

既に運営委員会主導の元で国際学会渡航支援が行われているように、本項目の重要度・優先度は高く、これからも継続して行われることが望ましいが、費用面の兼ね合いや他の支援方法、支援事業の実効性などについては定期的にチェック&レビューする必要があると考えられる。

(2)サブグループ 1：炉物理教科書の作成(RM [2-2-3] 炉物理の基礎学習のための導入的な教材の開発)

詳細については、別資料を参照。

(3)サブグループ 2:炉物理教材のデータベース化(RM [2-3-4] 炉物理講義要領の作成、[2-3-3]

炉物理教材のデータベース化)

- ・ 炉物理の研究の web での公開
- ・ 各大学・研究機関などで作成している炉物理関係の技術文書にアクセスするためのポータルを作成する。また、このポータルを維持するための仕組みを検討する。

4.WG 及び SG 構成メンバー

- ・ WG メンバーについては、部会の運営小委員会にて検討する。
- ・ SG メンバー(特に教科書)については、部会の運営小委員会の検討に加え、部会総会などにて、これらの活動への参加を呼びかける。

5. 予算措置

- ・ WG の活動については、できるだけメールや Skype 等を活用し、旅費が発生しない形で進める。
- ・ SG の活動については、WG で予算措置を検討する。

以上

2018年9月5日(水)

セミナー小委員会担当幹事 電力中央研究所 名内、佐藤

第51回夏期セミナーのためのアンケート

電力中央研究所では日本原子力学会炉物理部会のセミナー小委員会担当幹事を承っております。参加者に極めて好評を博した第50回セミナーの余韻も残る中恐縮ですが、2019年度夏期セミナーの準備を開始しております。大学の研究室などの7~8月のご予定と、今夏の酷暑の状況を鑑み、現状、下記の日程、会場を押さえております。つきまして、より魅力があり、御所属にも説明しやすいセミナーのテーマを準備するため、第50回に参加されなかった方も含め改めてアンケートを採りたく存じます。ご協力をお願いします。

日時 2019年8月5日(月)~7日(水)

場所 作並温泉 岩松旅館(宮城県仙台市青葉区)

*****アンケート*****

(1)夏期セミナー参加いただく場合、重視されるところをパーセントでご記入ください。

重視される項目	割合 (%)
講義聴講	
実習・演習	
グループディスカッション	
懇親・親睦	

(2)聴講を希望される夏期セミナーの講演・実習課題を挙げてください*。

*参考) 近年5回のテーマを参考に上げておきます。

第50回 炉物理プログラミングの「今」を学ぶ

第49回 炉心設計とその解析手法の基礎を学ぶ

第48回 炉物理の今後を考える

第47回 東京電力福島第一発電所事故後の炉物理研究の展開

第46回 炉物理と原子力安全 — 未臨界と動特性の基礎と応用

以上

第7回「炉物理専門研究会」のご案内

日時：2018年11月26日（月）～11月27日（火）

場所：京都大学 複合原子力科学研究所 事務棟大会議室

参加費：11/26の懇親会費1,500円、11/27の昼食代500円

2018年11月26日（月）

12:30	受付
13:00 - 13:05	開会（敬称略、名大・山本章夫）
13:05 - 14:05	Session I ：Special session（阪大・竹田 敏）
14:15 - 15:45	Session II ：核データおよび不確かさ解析（北大・千葉 豪）
16:00 - 17:30	Session III ：炉物理一般 I（名大・遠藤知弘）
17:45 - 20:00	懇親会

2018年11月27日（火）

9:00 - 10:30	Session IV ：炉物理一般 II（未定）
10:45 - 12:15	Session V ：KUCA 実験 I（東北大・相澤直人）
13:15 - 14:45	Session VI ：KUCA 実験 II（京大複合研・山中正朗）
14:45	閉会（京大複合研・卞 哲浩）

（補足事項）

- 講演者については旅費を支給します。ただし、学部学生および民間企業の方々には旅費が支給できませんこと、ご承知置きいただきます。
- Special session およびチュートリアルでは発表40分および質疑応答20分、Sessions II～VIの講演者は発表15分および質疑応答15分で準備をお願いいたします。
- 懇親会費および昼食代についての領収書は発行いたしかねますのでご了承ください。

2018年9月5日（水）

京都大学 複合原子力科学研究所

卞 哲浩